

ビジネス英語プログラム「BestA」について語り合う。

# 座談会

実践的なビジネス英語力の習得はもちろん、異文化に触れ、その生活、習慣を通じて、人間的にも大きく成長できるのも魅力。

BestA (ベスタ) は、イギリスのヨーク・セント・ジョン大学が関西大学商学部のためにだけ独自に用意した、少人数制のビジネス英語プログラム。

古都ヨークで、実践的にビジネス英語を学んでいきます。

今回は、1ヶ月コースに参加した鈴木麻里さん、藤垣拓也さん、松浦佑香さん、

1学期初級コースに参加した大橋孝信さん、野添紗椰さん、

そして1学期中級コースに参加予定の宮内明日香さんに集まっていただき、座談会を開催しました。

司会は、カーティス・ハート・ケリー先生にお願いしました。



## → いろいろな国の学生たちと意義ある交流が

【ケリー】まず、プログラムに参加して帰国されたわけですが、実際のところ感想はいかがですか？

【大橋】ひとこと、とっても良かったです。

英語はもちろんですが、知らない国の文化に触れるというか、いろいろな国の人と知り合い、勉強以外の雑談や交流を通じて、僕自身人間として大きくなったような気がしますね。

【松浦】ジョイントクラスでは他の国の学生たちと英語を学ぶわけです。サウジアラビア、スペイン、ロシア、タイ、それこそ実に多士済々。面白かったですね。

【野添】私のクラスは20人程度。ギリシャの方が過半数でした。あと、ポーランド、中国、タイかな。そうそう、マルコというスーパーかっていいイケメンがいたんですよ(笑)。彼らと交流するうちに、私の持っていた固定観念が崩れていきましたね。

【鈴木】年齢も一緒に中国の方がいました。とても仲良くなり、帰国した今でも連絡を取り合っています。

【藤垣】スペイン、ヨルダン。結構、国際色が豊かで、ビジネス英語の勉強に来ているという目的だけではない、楽しさがありました。

【宮内】私はみなさんと違って、もうすぐ出発する後発組

ですけど(笑)。そんなお話を聞いていると、早く行きたい気持ちがどんどん湧いてきました。

【全員】ぜひ!(笑)



## ← ヨークは、日本でいえば「小京都」のイメージ

【ケリー】じゃあ、後発組の宮内さんから先輩たちに聞いてみたいことは？

【宮内】ヨークって、どんな所なんですか？ それと、滞在中に困ったことってありました？

【大橋】安全で、住みやすい所ですね。ロンドンとは違って、忙しい街。それに対して、ヨークはいわば小京都のイメージがあります。文化を守り続けている街で、観光地なので旅行者も多いです。

【鈴木】古い建物が多いし、城壁に囲まれた古い感じのするところ。

【藤垣】まさに、荘重な街って感じ。

【野添】反面、市内のシティセンターへ行けば必要なものは何でも揃いますから、すごく便利。でも、少し離れると田舎(笑)。私、週に1回1時間程散歩していたんですけ

ど、牛や羊を見ながらの風景探索(笑)。非常に牧歌的なところもあります。

【松浦】北に行けば行く程、人が親切に感じられますね。

【鈴木】逆に困ったのは、バス(全員うなずく)。土・日はなく、1時間に1本ぐらい。非常にアバウトで(笑)、遅れることもしばしば。待ちきれずホームステイの家まで歩いて帰ったこともありました。

【大橋】手をあげないと、そのまま素通りってことも(笑)。

## → ホストファミリーとの充実した日々が待っている

【ケリー】ところで、ホームステイというのも日本では体験できないこのプログラムの特色のひとつだと思います。ホームステイでの思い出、エピソードなどはいかがですか？

【鈴木】ホストファミリーでは、中国の留学生と一緒にしました。ファミリー宅で毎晩TVを観るんですが、わからない言葉やフレーズが出てくると、みんなでコメントし合っんです。それに『クイズミリオネア』の英語版みたいなものを毎週観て、一緒にクイズを楽しんだり。英語の字幕なども参考になりましたね。毎日、みんなとワイワイ英語談義。その中国の留学生とは仲良しになって、日本に帰って来るとすぐメールが届きました。



Suzuki Mari  
鈴木 麻里  
1ヶ月コース

【野添】ホームステイ中にウェールズ地方に2泊3日で旅行をしたことがあります。その間、日本語は一切使わず、現地の人との会話もすべて英語漬け。もちろん、苦労しましたが今ではその体験が大きな自信になっています。



ホストファミリー

【松浦】スペインの留学生と一緒にした。そして、ホストファミリーの方は私たちの世話だけでなく、例えば会話ひとつをとってもユツクリとわかるように話しかけてくれるんです。それこそ「これ、わかる？」(笑)といったように。話す時間が増えることで、語学もずいぶん上達したんじゃないかな、と思っています。そのスペインの留学生はとても日本好きで、いつか京都を案内してほしいとされているんです。

【藤垣】みんな、いいホストファミリーに恵まれていたんだ。

【宮内】楽しそうなイメージばかりが浮かんでくるんですが、食生活はどうでした？

【大橋】それぞれ。基本的に主食はジャガイモと小麦。そ



Fujigaki Takuya  
藤垣 拓也  
1ヶ月コース





んなところがあるよね。

【鈴木】ジャパン・イブニングというイベントもありましたね。



【大橋】これは、ホストファミリーを呼んで日本の伝統を伝えるイベント。それぞれ班を作って、けん玉、折り紙、あやとり、書道、射的など、

日本に昔から伝わる遊びや道具などを紹介しました。

【松浦】すごく喜んでくれましたね。

【野添】射的用に木と輪ゴムで鉄砲を作ったんです。それをホストファミリーの子どもが「欲しい、欲しい!」と駄々をこねて(笑)。

【藤垣】日本の本当の姿を知ってもらおうという点では、とても意義のあるイベントだと思います。

## → 語学力を駆使したプレゼンテーション



【ケリー】このプログラムでは最大の特徴としてビジネス英語のさまざまな側面を教室で学習するだけでなく、イギリスのビジネスの現場を実際に体験して発表する。いわゆるプレゼンテーションがありますよね。

Matsuura Yuka  
松浦 佑香  
1ヵ月コース



【司会】  
KELLY, Curtis Hart  
カーティス・ハート・ケリー  
商学部教授



あやとりの紹介



けん玉の紹介



大学の校舎



ヨークの街並み



オーガニック農場



いかがでしたか?

【大橋】スーパーマーケットの調査を行いました。目的は日本とイギリスのスーパーマーケットの比較です。最初はまず、日本のスーパーマーケットの現状や組織、運営等を調べ、次にイギリスにおけるスーパーマーケット。直接現地の人々にインタビューを敢行。「週に何回行くか?」「なぜ、スーパーに?」「クオリティは?」「価格は?」など、いろいろな角度から調査してみました。

【野添】また、トラベルプロジェクトとして2泊3日のイギリス国内旅行を企画しました。エジンバラやロンドンなど候補地を自分たちで選択。現地に出向き、写真を撮ったり、ポスターを作成したりしていかにして候補地を売り込んでいくかをプレゼンテーションを通してアピールしていくわけです。

【松浦】プレゼンテーションなんて、それまで経験は全くゼロ。最初はホントに不安ばかりが先立ちました。でも、



プレゼンテーション

毎週していると、慣れというのかな、そのうち声がいいと褒められたり(笑)。とにかく、BestAに参加したおかげで、帰ってきてから大学のゼミ活動においても前に立って喋ることに余裕が出てきましたから(笑)。

【藤垣】ビジネス英語に特化してプレゼンテーションができる。それが、とても役に立ったと思います。

【大橋】それに、一般の語学学校でも英語力の習得という同じ目的の人が多いかも知れません。しかし、BestAではパソコンにしる、大学の設備を十二分に活用できる。そ



Ohashi Takanobu  
大橋 孝信  
1学期初級コース

こがスゴイと思いましたね。

【鈴木】チームでプレゼンテーションができることは、普通の語学学校ではできない貴重な体験だと思います。

【野添】確かに、プレゼンテーションはいい経験になりました。

【ケリー】ワーク・エクスペリエンスには参加しました?

【松浦】オーガニックの農場で働きました。そこで花や食物を作って、売るわけです。仕事というよりも、新しい体験をした感じですね。

そこは障がい者の方の施設でもあったのですが、いろいろな意味で楽しい時間を過ごすことができましたし、障がい者の方々と触れ合うことで、自分自身に新たな価値観が生まれてきたように感じました。

## → 中級コースの1期生、期待感にあふれて



Nozoe Saya  
野添 紗椰  
1学期初級コース

【ケリー】さて、このプログラムには夏休みの1ヶ月コースと15週間の初級コース、そして18週間の中級コースの3つのコースがあります。今回、宮内さんはその中級コースの第一期生となるわけですが。

【宮内】2月1日から6月5日の予定です。大学に入学した時から留学願望は持っていました。高校時代に2週間のオーストラリアへのホームステイを経験したことがあります。その時からだと思います、留学の気持ちが芽生えてきたのは。そして、昨年春でしたか、BestAの初級・中級コースのことを知りました。18週間のコースを修了すると、イギリスの大学へ進学する資格が得られるのが魅力でした。

【ケリー】とくに、これから海外へ出て行く不安はありませんか?

【宮内】海外へ行く実感はありませんが、不安もとくにありませんね。むしろ、海外生活を楽しまたい、友人をつくりたい。そんな期待感で一杯です。ぜひアメリカやイギリスには行きたいですね(笑)。

## 人間としても幅が広がる海外留学の魅力

【ケリー】最後に、これからこのプログラムに参加しようとする人へのメッセージをお願いします。

【鈴木】1ヶ月では英語はある程度喋れるようになって、思っている以上のレベルアップはあまり期待できないかも知れません。しかし、このプログラムに参加して語学力はもちろんですが、人間的に大きく成長したと思います。それに、価値観も変わりましたね。帰国した時、ホストファミリーから実家の方へ「着きましたか?」って電話がありました。すごくいい人間関係を創ることができました。

【藤垣】とにかく、すべてが新鮮で、いい経験ができます。思い切り楽しんできて欲しいですね。

【松浦】留学を経験すると、意志が強くなりました。限られた時間の中で最大限に学べるか否かも、自分の意志次第。意志を強く持ってチャレンジしてください。

【大橋】迷っている人も多いと思うんですよ。でも、迷っているなら行け!と言いたい。英語以外に、いろいろな意味でいい経験をすることができるのも、留学の魅力。ポジティブに考えて欲しいですね。

【野添】語学力が身に付いたことももちろんですが、いろいろな国の友人がたくさんできました。私にとっては、貴重な宝物になったと思います。

【宮内】みんな話を聞いていると、ますます早く行きたくなりました(笑)。今は、スピーキング、ライティング、リスニングにしる、わからないことはノートに全部書き出し、英語に取り組んでいる毎日です。中級コース参加の第一号という自負もありますから(笑)。【ケリー】どうもありがとうございました。私からも、一言。海外経験を積むと、自分の視野が大きく広がっていきます。それに、異文化との交流や体験も必ずプラスになるはず。そして、それは若いうちから実行、チャレンジすることにこしたことはないと思います。みなさんに続いて、積極的に海外留学にトライする学生たちが出てくることに期待しています。



Miyauchi Asuka  
宮内 明日香  
1学期中級コース参加予定者

ビジネス英語プログラム「BestA」について語り合う。

# 座談会

## 実践的なビジネス英語力の習得はもちろん、異文化に触れ、その生活、習慣を通じて、人間的にも大きく成長できるのも魅力。

BestA(ベスタ)は、イギリスのヨーク・セント・ジョン大学が関西大学商学部のためにだけ独自に用意した、少人数制のビジネス英語プログラム。

古都ヨークで、実践的にビジネス英語を学んでいます。

今回は、1ヶ月コースに参加した鈴木麻里さん、藤垣拓也さん、松浦佑香さん、

1学期初級コースに参加した大橋孝信さん、野添紗椰さん、

そして1学期中級コースに参加予定の宮内明日香さんに集まっていただき、座談会を開催しました。

司会は、カーティス・ハート・ケリー先生にお願いしました。



### いろいろな国の学生たちと意義ある交流が

【ケリー】まず、プログラムに参加して帰国されたわけですが、実際のところ感想はいかがですか？

【大橋】ひとこと、とっても良かったです。

英語はもちろんですが、知らない国の文化に触れるというか、いろいろな国の人と知り合い、勉強以外の雑談や交流を通じて、僕自身人間として大きくなったような気がしますね。

【松浦】ジョイントクラスでは他の国の学生たちと英語を学ぶわけです。サウジアラビア、スペイン、ロシア、タイ、それぞれ実に多士済々。面白かったですね。

【野添】私のクラスは20人程度。ギリシャの方が過半数でした。あと、ポーランド、中国、タイかな。そうそう、マルコというスーパーかついいイケメンがいたんですよ(笑)。彼らと交流するうちに、私の持っていた固定観念が崩れていきましたね。

【鈴木】年齢も一緒に中国の方がいました。とても仲良くなり、帰国した今でも連絡を取り合っています。

【藤垣】スペイン、ヨルダン。結構、国際色が豊かで、ビジネス英語の勉強に来ているという目的だけではなく、楽しさがありました。

【宮内】私はみなさんと違って、もうすぐ出発する後発組

ですけど(笑)。そんなお話を聞いていると、早く行きたい気持ちとどんだん湧いてきました。

【全員】ぜひ!(笑)



### ヨークは、日本でいえば「小京都」のイメージ

【ケリー】じゃあ、後発組の宮内さんから先輩たちに聞いてみたいことは？

【宮内】ヨークって、どんな所なんですか？ それと、滞在中に困ったことってありましたか？

【大橋】安全で、住みやすい所ですね。ロンドンが東京のようで、忙しい街。それに対して、ヨークはいわば小京都のイメージがあります。文化を守り続けている街で、観光地なので旅行者も多いです。

【鈴木】古い建物が多いし、城壁に囲まれた古い感じの所とところ。

【藤垣】まさに、荘重な街って感じ。

【野添】反面、市内のシティセンターへ行けば必要なものは何でも揃いますから、すごく便利。でも、少し離れると田舎(笑)。私、週に1回1時間程度散歩していたんですけ



ど、牛や羊を見ながらの風景探索(笑)。非常に牧歌的なところもあります。

【松浦】北に行けば行く程、人が親切に感じられますね。

【鈴木】逆に困ったのは、バス(全員うなずく)。土・日はなく、1時間に1本ぐらい。非常にアパートで(笑)、遅れることもしばしば。待ちきれずホームステイの家まで歩いて帰ったこともありました。

【大橋】手をあげないと、そのまま素通りってことも(笑)。

### ホストファミリーとの充実した日々が待っている

【ケリー】ところで、ホームステイというのも日本では体験できないこのプログラムの特色のひとつだと思います。ホームステイでの思い出、エピソードなどはいかがですか？

【鈴木】ホストファミリーでは、中国の留学生と一緒にでした。ファミリー宅で毎晩TVを観るんですが、わからない言葉やフレーズが出てくると、みんなでもコメントし合ってます。それに「クイズミリオネア」の英語版みたいなものを毎週観て、一緒にクイズを楽しんだり。英語の字幕なども参考になりましたね。毎日、みんなとワイワイ英語談義。その中国の留学生とは仲良しになって、日本に帰ってくるとすぐメールが届きました。



Suzuki Mari  
鈴木 麻里  
1ヶ月コース

【野添】ホームステイ中にウェールズ地方に2泊3日で旅行をしたことがあります。その間、日本語は一切使わず、現地の人との会話をすべて英語演げ。もちろん、苦労しましたが今ではその体験が大きな自信になっています。



ホストファミリー

【松浦】スペインの留学生と一緒にでした。そして、ホストファミリーの方は私たちの世話だけでなく、例えば会話ひとつをとってもコツコツとわかるように話しかけてくれるんです。それこそ「これ、わかる？」(笑)といったように。話す時間が増えることで、語学力もずいぶん上達したんじゃないかな、と思っています。そのスペインの留学生はとても日本好きで、いつか京都を案内してほしいと言われてるんです。

【藤垣】みんな、いいホストファミリーに恵まれていたんだ。

【宮内】楽しそうなイメージばかりが浮かんでくるんですが、食生活はどうでした？

【大橋】それぞれ。基本的に主食はジャガイモと小麦。そ



Fujigaki Takuya  
藤垣 拓也  
1ヶ月コース

んなところがあるよね。

【鈴木】ジャパン・イブニングというイベントもありましたね。



ジャパンイブニング

【大橋】これは、ホストファミリーを呼んで日本の伝統を伝えるイベント。それぞれ班を作って、けん玉、折り紙、あやとり、書道、射的など、

日本に昔から伝わる遊びや道具などを紹介しました。

【松浦】すごく喜んでもらえましたね。

【野添】射的用に木と輪ゴムで鉄砲を作ったんです。それをホストファミリーの子どもが「欲しい、欲しい!」と駄々をこねて(笑)。

【藤垣】日本の本当の姿を知ってもらおうという点では、とても意義のあるイベントだと思います。

### 語学力を駆使したプレゼンテーション

【ケリー】このプログラムでは最大の特徴としてビジネス英語のさまざまな側面を教室で学習するだけではなく、イギリスのビジネスの現場を実際に体験して発表する。いわゆるプレゼンテーションがありますよね。



Mitsuura Yuka  
松浦 佑香  
1ヶ月コース



【司会】  
KELLY, Curtis Hart  
カーティス・ハート・ケリー  
商学部教授



あやどりの紹介



けん玉の紹介



大学の校舎



ヨークの街並み



オーガニック農場



いかがでしたか？

【大橋】スーパーマーケットの調査を行いました。目的は日本とイギリスのスーパーマーケットの比較です。最初はまず、日本のスーパーマーケットの現状や組織、運営等を調べ、次にイギリスにおけるスーパーマーケット。直接現地の人々にインタビューを敢行。「週に何回行くか?」「なぜ、スーパーに?」「クオリティは?」「プライスは?」など、いろいろな角度から調査してみました。

【野添】また、トラベルプロジェクトとして2泊3日のイギリス国内旅行を企画しました。エジンバラやロンドンなど候補地を自分たちで選択。現地に向向き、写真を撮ったり、ポスターを作成したりしていかにして候補地を売り込んでいくかをプレゼンテーションを通してアピールしていくわけです。

【松浦】プレゼンテーションなんて、それまで経験は全くゼロ。最初はホントに不安ばかりが先立ちました。でも、



プレゼンテーション

毎週していると、慣れというのかな、そのうち声がいいと褒められたり(笑)。とにかく、BestAに参加したおかげで、帰ってきてから大学のゼミ活動においても前に立つことに余裕が出てきましたから(笑)。

【藤垣】ビジネス英語に特化してプレゼンテーションができる。それが、とても役に立ったと思います。

【大橋】それに、一般の語学学校でも英語力の習得という同じ目的の人が多くも知れません。しかし、BestAではパソコンにしろ、大学の設備を十二分に活用できる。そ



Ohashi Takano  
大橋 孝信  
1学期初級コース

こがスゴイと思えましたね。

【鈴木】チームでプレゼンテーションができる場所は、普通の語学学校ではできない貴重な体験だと思います。

【野添】確かに、プレゼンテーションはいい経験になりました。

【ケリー】ワーク・エクスペリエンスには参加しました? 【松浦】オーガニックの農場で働きました。そこで花や食物を作って、売るわけです。仕事というよりも、新しい体験をした感じがですね。

そこは障がい者の方の施設でもあったのですが、いろいろな意味で楽しい時間を過ごすことができましたし、障がい者の方々と触れ合うことで、自分自身に新たな価値観が生まれてきたように感じました。

### 中級コースの1期生、期待感にあふれて



Nozoe Saya  
野添 紗椰  
1学期初級コース

【ケリー】さて、このプログラムには夏休みの1ヶ月コースと15週間の初級コース、そして18週間の中級コースの3つのコースがあります。今回、宮内さんはその中級コースの第一期生となるわけですが。

【宮内】2月1日から6月5日の予定です。大学に入学した時から留学願望は持っていました。高校時代に2週間のオーストラリアへのホームステイを経験したことがあります。その時からだと思えます、留学の気持ちが芽生えてきたのは、そして、昨年の春でしたか、BestAの

初級・中級コースのことを知りました。18週間のコースを修了すると、イギリスの大学へ進学する資格が得られるのが魅力でした。

【ケリー】とくに、これから海外へ出て行く不安はありませんか?

【宮内】海外へ行く実感ありませんが、不安もたくさんありません。むしろ、海外生活を楽しみたい、友人をつくりたい。そんな期待感一杯です。ぜひアメリカやイギリスには行きたいですね(笑)。

### 人間としても幅が広がる海外留学の魅力

【ケリー】最後に、これからこのプログラムに参加しようとする人へのメッセージをお願いします。

【鈴木】1ヶ月では英語はある程度喋れるようになっても、思っている以上のレベルアップはあまり期待できないかも知れません。しかし、このプログラムに参加して語学力はもちろんですが、人間的に大きく成長したと思います。それに、価値観も変わりましたね。帰国した時、ホストファミリーから実家の方へ「着きましたか?」って電話がありました。すごくいい人間関係を創ることができました。

【藤垣】とにかく、すべてが新鮮で、いい経験ができます。思い切り楽しんでできて嬉しいです。

【松浦】留学を経験すると、意志が強くなりました。限られた時間の中で最大限に学べるか否かも、自分の意志次第。意志を強く持ってチャレンジしてください。

【大橋】迷っている人も多いと思うんですよ。でも、迷っているなら行けと言いたい。英語以外に、いろいろな意味でいい経験をする事ができるのも、留学の魅力。ポジティブに考えて欲しいですね。

【野添】語学力が身に付いたことももちろんですが、いろいろな国の友人がたくさんできました。私にとっては、貴重な宝物になったと思います。

【宮内】みんな話を聞いていると、ますます早く行きたくなりました(笑)。今は、スピーキング、ライティング、リスニングにしろ、わからないことはノートに全部書き出し、英語に取り組んでいる毎日です。中級コース参加の第一号という自負もありますから(笑)。

【ケリー】どうもありがとうございました。私からも、一言。海外経験を積むと、自分の視野が大きく広がっていきます。それに、異文化との交流や体験も必ずプラスになるはず。そして、それは若いうちから実行、チャレンジすることではないと思います。みなさんに続いて、積極的に海外留学にトライする学生たちが出てくることに期待しています。



Miyuchi Asuka  
宮内 明日香  
1学期中級コース参加予定者